



まちづくり・コミュニティ

町会・自治会

防犯・防災・みまもり

こども

教育

シニアライフ

健康

スポーツ

芸術・文化・趣味

環境

ふくしとサポート

NPO・ボランティア

国際交流

男女共同参画

農業・商工業

ホーム > 市民レポーター > 「ひまわり、その前向きな愛に感謝を込めて」東久留米から東北・東松島へ、そして東久留米へ

### 「ひまわり、その前向きな愛に感謝を込めて」東久留米から東北・東松島へ、そして東久留米へ

感動的なお話を聞きました。ご近所の東北出身のママさんからです。

その話をもう少し詳しく知りたくて、用紙一枚に・・と頼みました。

ご本人の了解を得ましたので、ご紹介します。

(市民レポーター：球歩)



変わらない日常が営まれていたはずの3月11日、我が故郷は甚大な、という言葉さえ易々と凌駕する被害を被りました。

惨劇は個人的なことではなく、国内の広大な地域が舞台となってしまいました。

連絡手段として万能と思われていた携帯神話はあっさり崩壊し、大切な人々の消息がつかめず身悶えする日々が続きました。

「あのね、地震来たんだよ、そのあと津波も来たの。車も家もねぐなっちゃったよ。」

雪降る厳寒の山中で二晩を過ごした叔父の、変わらぬ朴訥な声が電話口から聞こえたのは、奇しくも長女の卒園式の朝。

様々な意味で涙の止まらぬ式典となりました。

「がんばろう日本」をスローガンに、国をあげての支援が行われはじめ、混乱の最中でも秩序を失わない日本人の美徳に世界が驚嘆しました。

報道や、避難所と化した私の実家での様子、ぽつぽつと連絡がつきだした知人の話から、改めて東北人の底力に敬服しました。

皆が前を向いている、と思っていました。

が、大災害の爪あととはそう簡単に消失するものではありません。

叔母の1人は黒々としたおろちのような波に追われ、車を乗り捨て、足元をすくわれながら、まさに間一髪で九死に一生を得たものの、親族や住居を歯牙にかけられた傷は濃み、癒えることなく、日に日に憔悴していきました。

溜息しか聞こえない受話器に励ましの言葉は空疎に響けただけでした。

歯噛みする思い募るばかりだった七夕の日の夕方、電話がなりました。

「ちょっと、びっくりしたわ!」叔母の明るい声に耳を疑いました。

東久留米の牽牛様から汚泥とがれきに侵食された庭に沢山の黄色いお日様が届いたということです。

東久留米と描かれたトラックできたのよ、Aさんとおっしゃってたわ、野菜も沢山、タオルもよ、弾む言葉が続きます。

そして、その日を境に叔母は以前の明るさを取り戻しました。

私からの衣類や好物の菓子では届かなかった「愛」が配達されたのです。

見も知らぬ叔母のところへ、匿名や架空の誰かではなく、実在するプリンスが現れ、ひまわりを届けてくれたのです。

ライフラインが完全にストップしたままの家屋2階に引きこもりがちだった叔母が、いただいた野菜やひまわりを配り歩き、その嬉々とした様子に皆安堵しました。

この夏ようやく東松島に帰郷し、叔母宅を訪問した時には、ひまわりは大志を成し遂げたあとの様相となっていました。

長女がせっせと種を取り、それは鮭のようにまた東久留米へ帰ってきてしまいました。

来夏、我が家のネズミの額庭にも大輪の花を咲かせてくれるでしょうか。

未曾有の出来事に失われたものの大きさをはかることはできないけれど、あるがままをあるがままに受け止めつつ、また歩き出す力を人間は持っています。

その原動力はつながりあうことから生まれる人間の「愛」だということに改めて気づかされました。

恩返りする手段も方法もありませんが、善意溢れる行動が持つ偉大さを、せめて子どもたちに伝えていきたいと思っています。